

小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「関係論」的纏め(二頁)

五章

①孔子の像(物:場 C')⇒からの関係:①を「②直知・粗描」(D1の至大化)⇒②とは「③『孔子の意は浴沂(よくき)詠歸にあり』」(②的概念F)⇒E:③は「④生涯崩れはしなかつた」(③への距離獲得:Eの至大化)⇒青年宣長(△粹):①への適應正常。

六章

*①文献的事實(物:場 C')とは②人間(物:場 C')の事⇒からの関係:②が担つてゐる『意味のふかき處』(即ち①)を「③知る」(D1の至大化)⇒③には②と「④親しく交はる(我物にする:③的概念F)⇒E:④の「⑤他に道はない(契沖から得た學問の極意)」(④への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長(△粹):①②への適應正常。
*①學問(物:場 C')②學者として生きる道(物:場 C')③契沖の歌學(物:場 C')⇒からの関係:①②とは何か、といふ問ひが③。其の③に「④出會つた」(D1の至大化)⇒「⑤歌學に關する蒙」(④の對立的概念F)⇒E:⑤を「⑥開かれたのではない」(Eの至大化) (⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長の根本(△粹):①への適應正常。

七章

*①契沖『大明眼』の『本意』『意味のふかき處』(物:場 C')②基本的な思想即ち「歌學」(物:場 C')③學問の眞(物:場 C')⇒からの関係:①では②は「④俗中の眞である」(D1の至大化)⇒「⑤俗中の俗〔世事・狂言綺語(④の對立的概念F)〕⇒E:③は⑤を「⑥拂へば足りる」(Eの至大化) (⑤への距離獲得:Eの至大化)⇒宣長(△粹)に感得:①への適應正常。

①(物:場 C'):五章:孔子の像(物:場 C')。

六章: *①文献的事實(物:場 C')とは②人間(物:場 C')の事。

*①學問(物:場 C')②學者として生きる道(物:場 C')③契沖の歌學(物:場 C')。

七章:①契沖『大明眼』の『本意』『意味のふかき處』(物:場 C')

②基本的な思想即ち「歌學」(物:場 C')③學問の眞(物:場 C')

八章:

② からの関係②(D1の至大化)

五章 ①を「②直知・粗描」(D1の至大化)。

六章 *②が担つてゐる『意味のふかき處』(即ち①)を「③知る」(D1の至大化)。
*①②とは何か、といふ問ひが③。其の③に「④出會つた」(D1の至大化)。

七章 *①では②は「④俗中の眞である」(D1の至大化)。

八章

F(③言葉・概念)...

五章:「③『孔子の意は浴沂(よくき)詠歸にあり』」(②的概念F)。

六章:「②と「④親しく交はる(我物にする:③的概念F)」。

「⑤歌學に關する蒙」(④の對立的概念F)。

七章:「⑤俗中の俗〔世事・狂言綺語(④の對立的概念F)〕。

八章:

E: [F(③言葉・概念)との附き合ひ方④・用法④]...「So called」F③と(△粹)との距離獲得」(Eの至大化)。

五章:③は「④生涯崩れはしなかつた」(③への距離獲得:Eの至大化)。
六章: *④の「⑤他に道はない(契沖から得た學問の極意)」(④への距離獲得:Eの至大化)。

*⑤を「⑥開かれたのではない」(Eの至大化) (⑤への距離獲得:Eの至大化)。

七章:③は⑤を「⑥拂へば足りる」(Eの至大化) (⑤への距離獲得:Eの至大化)。

八章:

(△粹)

五章:青年宣長(△粹):①への適應正常。

六章:宣長(△粹):①②への適應正常。

宣長の根本(△粹):①への適應正常。

七章:宣長(△粹)に感得:①への適應正常。

八章: